

大野市小中学校再編計画（案）説明会開催結果概要

日 時 令和3年6月16日（水）午後7時04分～8時32分
場 所 上庄小学校 体育館
出席者 上庄小学校区未就学児保護者 4名
教育長、教育委員会事務局長、教育総務課長、学校教育審議監
教育総務課職員3名

顛 末

①教育長あいさつ

②大野市小中学校再編計画（案）の説明（資料に基づき説明）

③質疑応答

参加者 小学校の学用品の購入支援があるが、体操服は1枚か3枚かどこまで補助があるのか。

市教委 乾側小学校の例では、2枚までの補助としている。

参加者 中学校も同様に補助を行うのか。

市教委 小学校は小学校再編支援事業補助金交付要綱を制定している。今後、中学校も要綱を制定したい。同様の支援で考えている。

参加者 小学校の再編は7校になった後にどう進むのか。

市教委 小学校が7校になった後は、この計画に定める再編が完了する令和8年度から概ね5年を目途に、再編の方向性の検討を始めたいと考えている。ただし、毎年児童生徒数の推移や国の動向などそういったことの把握は毎年行いたい。

昨年度、検討委員会に保護者や関係団体の代表者に参加いただいた。小学校再編計画検討委員会報告書にある5校案は、現在ある中学校区毎に小学校を1校残す案となる。開成中学校区、陽明中学校区、上庄中学校区、尚徳中学校区、和泉中学校区でそれぞれ1校というのがここで言う5校案である。この5校案の他にもいろいろな可能性があるため、市全体を対象に検討したいと考えている。

参加者 最初の2校1校の計画の時に学校の老朽化の話があったが、年数的にもう限界となる学校はあるのか。何年ぐらい学校はもつのか、手を入れないといけないのか。

市教委 昨年度に各学校のコンクリートのコア抜き調査を行っている。コンクリートの耐力調査を行っているが、ほとんどの学校は大丈夫である。開成中学校と陽明中学校は、コンクリートの強度では現時点では問題がない。

一般的には建築から60年ぐらいが耐用年数になる。開成中学校、陽明中学校は残り10年ぐらいになる。必要な改修は行っていきたい。

また、10年以上経って、次の再編の時にはそのまま校舎を使うのか、2校をそのまま維持できるのか、あるいは1校という選択肢を考えないといけないかもしれない。その場合には新築という話も出てくるかもしれないと思っている。

参加者

非常に分かりやすい説明でありがたい。小学生の親になるが、資料2ページの子どもの成長過程を踏まえるということが、その学校教育が今回の再編計画で重要と思っている。

一昨年度の意見交換会では、特に小学校期は、通学の負担や保護者の負担、少人数教育の良さもあり、保護者から小学生は上庄地区で育ててほしいという要望が多くあったと記憶している。私も同様の意見である。そういった意見を丁寧にくみ上げて検討した結果でありがたいと思っている。

一方、中学生はある程度自我が目覚めていて、本人たちがより広い世界で教育を受けていく。上庄の良さもあるが、親としてはより広い世界でいろいろな人と関わり合って過ごしてほしいと思っている。そういった計画案になっていて、説明を聞いて納得している。

小学校であるが、上庄では少人数教育をしていくものの、他の学校では2、3クラスあるように違いがある。上庄小学校は、1クラスで少人数教育の特性を活かした教育を進めてほしい。学校だけにはお願いするのではなく、地区の住民として自分自身も上庄小学校の良さを発揮できるよう関わっていかないといけない、そのように自分も実行したい。

市教委

上庄小学校は本当に地域性が高く、子どもたちが保護者だけでなく地域全体で見守られて温かく、時には厳しく育つ環境がある。夏祭りや麻那姫感謝祭、敬老会など本当に子どもたちの活躍の場がたくさんある。農業体験でも、地区住民の協力を得て田植えや里芋栽培をしている。本当にありがたいと思っている。

中学生になった時に、さまざまな発表の場があると良い。例えば上庄中学校には吹奏楽部があるが、先日の防災訓練において開成中学校に演奏の依頼があった。やはり子どもたち自身も発表する発信する機会があった方が良かったと思った。もちろん、上庄地区にも上庄中学生が頑張っ発表したり、敬老会ではボランティアとして一緒に働いて一所懸命弁当を運んだりするなど献身的な姿を見てきた。子どもたちが大会などで更に自分たちの力を伸ばしていくことに多いに期待したい。

上庄の子どもたちは1クラスずつかもしれないが、大野市を一体的に捉えて、今なら上庄中学校にいてもリモートでつながることができる。

また、有終南小学校と有終東小学校とスクールバスを利用しながら、実際に交流もできる。緩やかな連携をしっかりとって、その中でも頑張るし、

また大野の友だちともふれ合いながら世界を広げて行ってほしい。それから、今の計画では中学生になると3、4クラスになり、クラス替えもできる。小学校では他の学校との連携を行って、中学校になったら大きな集団の中でさまざまな生徒と交流ができるように9年を見通して考えている。

参加者

気になった点は、自分たちが小さい時よりも、登下校では親や家族に迎えを頼むことが多いと感じている。学校再編をすると、例えば南小学校の前で車が停めにくい所がある。児童数が増えて、小山の子たちの迎えが来る。その時に車を停める駐車場の確保やロータリーなど整備する計画はあるのか。車の事故もあるので、その辺のスペースの確保はあるのか。

また、上庄中学校の専門教員で5校あって2校しか専門教員がない。今はなぜ配置ができていないのか。今すぐ配置しろという訳ではないがなぜか。

市教委

今、小山小学校と有終南校小学校が統合するから、また、阪谷小学校と富田小学校が統合するからとあって、ロータリーや駐車場の整備などは検討していない。各学校の周辺の状況もあるし、保護者の協力により解決されることもあるので、個々の状況に応じて対応していくことになる。

さらに、小中学校では災害に備えた引き渡し訓練を行っており、その時に車で迎えに来る状況がある。上庄小学校では一方通行にして危険のないよう対応している。引き渡し訓練を通して一方通行にしたり、時間をずらしたりすることが考えられる。

また、最近送り迎えが多いのはクマの出没もある。子どもが集団下校で帰っても子どもだけではクマの対応はできない。特に上庄地区は校区が広いので、クマ対策で保護者の方に送迎をお願いしている。

専門教員の配置の件では、開成中学校で見ると、令和3年度の生徒数の現状では3学級の学年であり、家庭科教員が配置できない。専門教員の配置は学級数を基準として、県の教育委員会が配置を行っている。家庭科教員は1学年4学級になると配置できる。

上庄中学校の場合は、全ての学年が1学級であるが、学級を規準として学級数の1コンマ何倍で教員が配置されるので、音楽、美術、家庭科、技術の教員が配置されない。予定では、令和6年度に開成中学校は全て4学級になるので、全ての専門教員が配置できる。

参加者

多分中学校は合併すると思うので、大丈夫だと思っている。国の基準も変わるかもしれない。

市教委

国でも小学校35人学級が話題に上がっている。福井県は先行的に少人数学級を実施している。小学校は1年生から6年生まで35人学級、中学校は1年から3年生まで32人学級である。

参加者 少人数教育の良さはあるが、上庄は1クラスで人間関係がリセットしづらいデメリットがある。保護者として自分の子どものメンタルケアをやっていけないといけないが、少人数教育のデメリットの部分も配慮して学校運営してほしい。

市教委 2学級以上ある学校はクラス替えがあるが、どこの学校でも縦割り活動を行っている。学級の中では目立たない子どもが縦割り活動になると、お兄さんお姉さんがいて、非常に張り切って活動する子もいる。

上庄小学校で2学級から1学級になった時に、低学年の1年、2年の絆を作っていこう、3年、4年の絆をもっと大切にしていこうと、交流の部分で1学年1学級のデメリットの部分の解消を図ってきた。

人数の少なさできめ細かな指導ができることは少人数教育のメリットであり、十分に話し合っけて児童同士が高め合うことができると感じている。

資料2ページの自尊感情に大野市は全面的に焦点を当てており、去年から国の指定を受けて魅力ある学校づくりを行っている。それは不登校に悩む、学校生活に悩む子どもの数を少しでも無くすため重点的に取り組んでいる。その中で、社会的な自信、基本的な自信を一人一人に小さくてもいいから多く持たせていく。そういう中で学校の集団、学級の集団を良い形にもっていきたいと思っている。子どもが過ごしやすい、学校に行きやすくなるよう全力を挙げて取り組んでいる。それが小規模集団で人間関係を上手くやっていく、根本的な点だと思っている。

また、大野市独自では、小中学校に結の故郷教育支援員を配置しており、その支援員が子ども一人一人に対応し、しっかり子どもを見る体制でサポートしている。

参加者 統合では、上庄中学校の教職員全員を開成中学校に異動させるのか。上庄中学校に勤めている教職員を違う学校に異動させないなど話しているのか。

市教委 そのような話はしていない。乾側小学校の例では3名の教職員が下庄小学校に異動している。常にそうなるか約束はできないが、可能な限り上庄中学校の子どものフォローができるように人事を考えていきたい。

開成中学校にいる教員も統合すると同じ学校の生徒となるため、しっかりと見させていただく。毎年、大野に新採用で来られて地元に戻る教員や大野出身の教員が帰ってくるなど、いろいろな形があるので、その中で最大限配慮させていただくことになる。

参加者 統合する場合に担任していた先生が市外に異動することもあるのか。その年は統合するので、先生を大野市から出さないでほしいなど要望できるのか。

市教委 教員の市外への異動はある。そこを制限することは基本的にはできないし、しない方が良いと思っている。毎年の人事異動でも担任の継続性や教員の当該学校での勤務年数など、できる限り学校が良い状態で次の年度に移行できるように、毎年非常に慎重に人事異動を行っている。統合がある年は配慮するが、あまり極端なことにはならない。10人の教員が10人とも統合先に異動する、開成の教員は動かないなどそういうことまではできないし、しない方が良いと思っている。子どもたちが新しい学校に行つて新しい友人や教員との人間関係を作ったりすることも大切なので、心配はしても心配し過ぎないように子どもたちを信じてあげる、期待してあげることなども考えながら慎重に進めたい。

参加者 大野市が目指す学校教育で地域性を生かすところで、実際に大野で働いている人が授業をして、こういう仕事が大野にあるよと説明するような授業をやっていると聞いた。それをもっと小中学生に、先生以外の大野で働く大人をもっと授業の一環として紹介して、大野市全体としていろいろな大人を見せるような教育を大野全体でやってほしい。

市教委 中学2年生で大野市青年会議所が行っている。いろいろな仕事の人が10名程度入って2時間程度子どもたちに職業のことを話したり、質問を受けたり、ワークショップをしたりしながら授業を行っている。キャリア教育、職業教育といったカリキュラムがたくさんあって、そのような方向性で進んでいる。

小学校でも総合的な学習時間を使って、ゲストティーチャーとしてさまざまな職業の方を呼んでいる。1、2年生では、まち探検で地区を回ってその良さを発見することをして、3年生からはさらに故郷を愛して故郷に対して自信と誇りを持つような教育を行っている。

これからは、高学年では故郷を愛するだけでなく、故郷が持つ課題も考えて故郷を担っていく教育を行い、中学校、高校につながっていくと思っている。

市では大野高校で「私が未来の市長プロジェクト」を行っている。中学校までは地域とさまざまに関わり合いがあるが、高校になると明らかに地域と分断されてしまう。そこをつなぎ止めようと高校1年生に未来の市長として、どのようにしたら大野が良くなるか提案いただいている。全部ではないがいくつか実際に施策に取り入れて、そうすることによって地域の事を考えて、ひいては大野にまた帰ってきてもらうという取り組みを行っている。

参加者 「私が未来の市長プロジェクト」の結果は広報おおのなどに出ているのか、出ていればいいと思った。プロジェクトの結果をいくつか聞いたが、

もしかして民間でできることもあって、高校生が真剣に考えているので、そういったことが実現できたら高校生の意識も変わるのではないか。自分の考えが反映されるのはいいことで、もっと民間に知ってもらうのはいいのではないかと思った。

市教委 引き続き、皆様のご協力をお願いしたい。

奥越明成高校の生徒も非常に頑張っている。荒島の郷の缶バッジのデザインを数種類作ってくれた。また、荒島の郷のレストランのメニューも奥越明成高校の生徒が考えて実現している。高校生が地域に入ってきて活躍しているので、小学校、中学校、高校としっかりと繋いでいきたい。

④閉会のあいさつ（事務局長）